

神楽通信

No.80

2022年

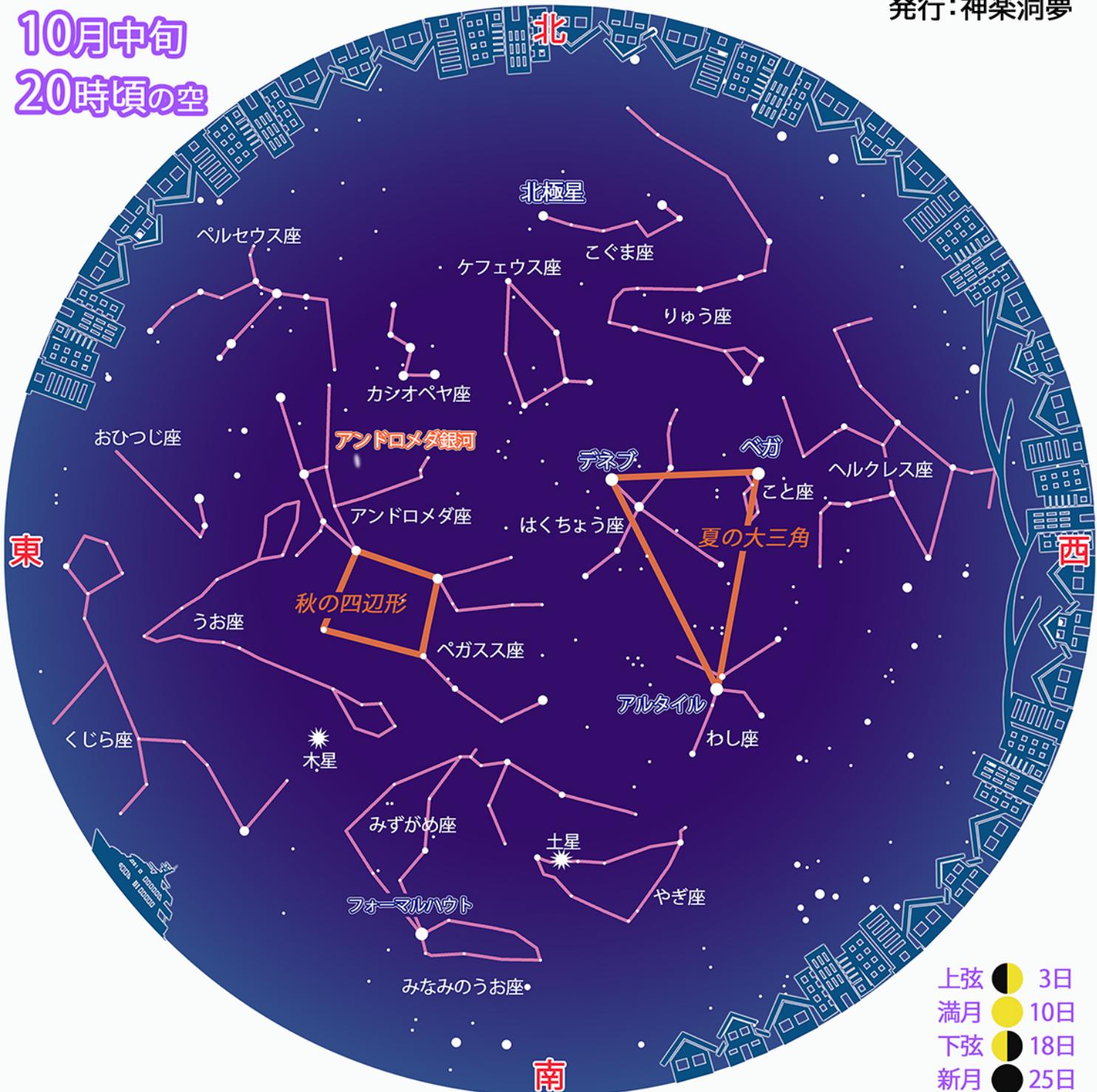
10月号



発行:神楽洞夢

10月中旬

20時頃の空



秋も次第に深まりを見せ、最近では日が沈むのも早くなってきました。おかげで星の観察も長く楽しめるようになってきました。さて、そんな秋の夜空、南東の空にひときわ明るく輝く星を見つけることができます。太陽系最大の惑星、木星です。

-2.9～-2.8等級という明るさと、惑星ならではの堂々とした輝きは、「真夜中の明星」と呼ぶにふさわしいでしょう。特徴的な縞模様や「ガリレオ衛星」など、双眼鏡や望遠鏡を使って、じっくり観察してみましょう！

おとなりの銀河を覗いてみよう！

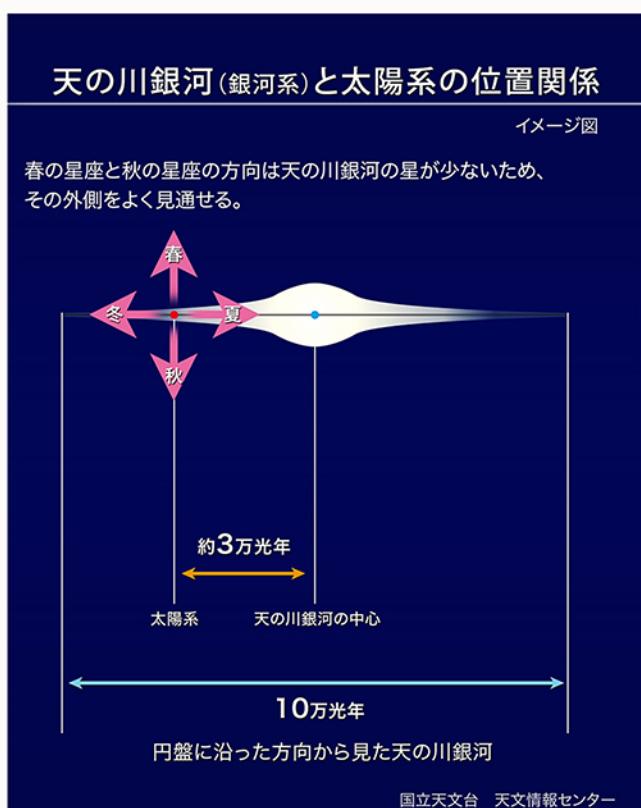
夏や冬に比べて、秋の夜空では見える星の数が少なくてすこし寂しいです。

私たちが見上げる夜空に輝く星々は「天の川銀河」に属しています。「天の川銀河」は、数千億個もの星が円盤状に集まる星の大集団で、私たちの住む太陽系もこの銀河の中にあります。

夏や冬は円盤に水平な方向を見ているので、遠くまでたくさんの星がありますが、秋は、円盤に垂直な方向を見ることになるため、星があまりないのです。

さて、そんな秋の夜空は星々が少ないが故に、おとなりの銀河を見ることがあります。

それはアンドロメダ座の中にある、”うずまき”的な形をしたアンドロメダ銀河です。肉眼で見てみると、ぼやっとした光のもやのように見えます。



国立天文台 天文情報センター

国立天文台 天文情報センター

巨大銀河！アンドロメダ銀河！



NASA



Okasan Digital Dome Theater
神楽洞夢
KAGURA DOME

〒514-0032 三重県津市中央5-20 岡三証券グループ津ビル4階
<http://kagura-dome.jp> TEL. 059-221-3121 FAX.059-226-1565

地球から肉眼でぼんやりと見えている部分はバルジと呼ばれる、銀河の中央の濃い部分で、銀河の円盤の縁までは満月約5~6個分の大きさに広がっています。

しかし、実際の規模はさらに途方もないものなんです。その直径は約22~26万光年で、なんと天の川銀河の約2倍以上あり、そして銀河の中には約1兆個の太陽のような恒星が存在しています。

そんなアンドロメダ銀河はタイトルのとおり、私たち天の川銀河のおとなりさんで、同じ局所銀河群という銀河の集団をつくっています。ただ、おとなりさんといつても距離としては約250万光年も離れています。光の速さでも250万年かかるわけですから、ご近所へのあいさつはとても難しそうですね。